

平成 24 年度第 6 回 IODP 部会執行部会

日時:2013 年 4 月 1 日(月)15:00~17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 共用会議室

出席予定者:

執行部:川幡穂高(部会長・東京大学大気海洋研究所) 西 弘嗣(部会長補佐・東北大学)
木村純一(海洋研究開発機構) 小林励司(鹿児島大学) 辻 健(九州大学)
中西正男(千葉大学) 中村恭之(海洋研究開発機構) 七山 太(産業技術総合研究所)
村山雅史(高知大学海洋コア総合研究センター) 森田澄人(産業技術総合研究所)
森下知晃(金沢大学)

オブザーバー:

文部科学省海洋地球課:金子恭平
IODP-MI:川村善久
事務局:倉本真一 梅津慶太(CDEX)

欠席予定者: 鈴木庸平(東京大学) 道林克禎(静岡大学) 横山祐典(東京大学大気海洋研究所)

議事次第(案)【説明者(敬称略)】

1. 次期 IODP の枠組みに関する検討状況【事務局】
 - ・Chikyu IODP Board (CIB)
 - ・JR FB 及び ECORD FB.....資料1, 2
2. CHIKYU+10 International Workshop と国内準備【事務局】
 - ・国内準備資料 3
 - ・学生旅費支援資料 4
3. IODP 掘削航海関連報告【事務局】.....資料 5
4. JpGU2013 関連【事務局】
 - ・地球掘削科学セッション資料 6
 - ・タウンホールミーティング
5. J-DESC 総会関連
 - ・次期 IODP 部会体制について(J-DESC 役員, 次期執行部等)資料 7
 - ・活動方針及び予算資料 8, 9
6. 日本学術会議大型研究計画マスタープラン改定関連報告【西】
7. その他

配布資料

- 資料 1 JOIDES Resolution Facility Board 会議報告書
- 資料 2 ECORD Facility Board 会議報告書
- 資料 3 CHIKYU+10&レビューペーパー国内準備状況
- 資料 4 CHIKYU+10 学生旅費支援応募書類
- 資料 5 IODP 掘削航海関連報告
- 資料 6 JpGU 地球掘削科学セッション
- 資料 7 J-DESC 役員の交代
- 資料 8 平成 24 年度活動方針
- 資料 9 平成 24 年度予算執行状況(3/8 現在)

議事次第(案)【説明者(敬称略)】

はじめに、文部科学省海洋地球課木村企画官よりご挨拶をいただいた。その後、執行部委員の自己紹介が行われた。

1. 次期 IODP の枠組みに関する検討状況【事務局】

・Chikyu IODP Board (CIB)

- ・ 先日 CIB 委員の選考会議が開催され、応募者の中から Chair を含む 3 名の日本人と 3 名の外国人委員が選出された。
- ・ 第 1 回会議は 7 月下旬で調整中。

・JR FB 及び ECORD FB.....資料 1, 2

・ JOIDES Resolution Facility Board

- 3 月 18 日～20 日に NSF(バージニア州アーリントン)にて開催された。
- 日本からは石渡氏が委員として参加した。
- PEP は米国 14 人, 欧州 9 人, ブラジル 2 人, ANZIC, インド, 中国, 韓国各 1 人, 日本 6 人の計 35 名とする案が示された。
- JR への乗船枠は, 米国 8 人, 欧州 8 人, ブラジル 2 人, ANZIC, インド, 中国, 韓国各 1 人, 日本 4 人となっている。
- コア試料の保管はこれまで通りテキサス, ブレーメン, 高知にて分配して管理するシステムを継続し, 高知に対して継続的に経済的支援を行う。
- FY16, 17 はインド洋と西～南西太平洋, FY18, 19 は南～中部大西洋の掘削航海を行う方針が決定された。
- IODP SSP Data Matrix については, 特に岩石学などの研究者から要求レベルが高すぎるという批判があるとの指摘があり, 掘削目的やサイトの地質学的な特性に応じて必要な事前調査の制度は違うはずであり, 今後はもっと柔軟に対応する必要性が強調された。
- 次回は 8 月に開催されることが決定された。

・ ECORD Facility Board

- 3 月 8 日～9 日に BGS(エジンバラ)にて開催された。
- 日本からは山田泰広氏が PMO(J-DESC)からのオブザーバーとして参加した。
- 会議全体としては報告事項が多く, MSP 運用に関するポリシーや展望・戦略などが議論されることはなかった。
- 今後の MSP は Arctic に 2 expeditions, Non-arctic に 4 expeditions, ピストンコアリングを行うような Research Vessel w/ seabed drilling に 4 expeditions を実施する見通しである。
- Exp. 347 Baltic Sea 後の MSP の予定としては, Chicxulub が最もプライオリティが高く, 2014 年に実施, 次いで Atlantis Massif(2015 年だができるだけ Chicxulub に近く), 次いで Hawaiian Drowned Reefs, さらに Late Pleistocene Coralgall Banks との順位づけがなされた。
- 次回は 2014 年 3 月第 1 週に開催予定。

2. CHIKYU+10 International Workshop と国内準備【事務局】

・国内準備.....資料 3

- ・ CHIKYU+10 への準備として, 各プロジェクトでレビューペーパーの執筆を行ってきている。
- ・ Marginal Sea(石塚氏ほか), NZ-CRISP-KAP(氏家氏ほか), 海底地すべり(森田氏ほか), 白亜紀巨大海台(中西氏ほか)がレビューペーパー執筆合宿を実施した。
- ・ この他, 合宿は実施しないものの, 南極氷床発達(菅沼氏ほか), 海底巨大カルデラ(前野氏ほか), ガスハイドレート(戸丸氏ほか), 大陸形成(木村氏ほか)がレビューペーパーの執筆を計画している。
- ・ 今後のスケジュールは以下の通り。

- CHIKYU+10 までに、ワークショップ時の実際の発言にも裏付けがあり説得力がつくよう、視点・意見を具体的に整理し、8割までレビューペーパーの原稿を作成する。
 - CHIKYU+10 の際に各々で原稿の確認を行う。
 - 6月中に国外のメンバーを含めて原稿を完成させる。
 - 7月または8月にレビューペーパーを投稿。
 - 秋以降に具体的な掘削のために必要なものを洗い出す(→資金、サイトサーベイ、チーム拡大など)。
 - 半年～1年後に掘削提案を提出する。
 - さらに後に掘削実現。
- ・ 以上のスケジュールの内、今年秋以降の部分については次期執行部においてサポートしてほしい。

JR に関してはインド洋に行った後の掘削プロポーザルが圧倒的に不足している。

JR が行く海域(長期的な運航計画)に合わせたプロポーザルを通して行く戦略が必要。

「ちきゅう」のプロポーザルをどうするかについては JR のプロポーザルも考えながら対応していく必要がある。

・学生旅費支援資料4

- ・ CHIKYU+10 に遠方から参加する学生(博士課程限定)に対して、J-DESC の独自予算から支援を行う。
- ・ 昨日まで募集を行っていたところ3名から申請があった。

合意事項(130401-01):申請者全員の CHIKYU+10 への旅費支援を認める。

3. IODP 掘削航海関連報告【事務局】.....資料5

- ・ Exp. 348 には2名応募があり、4/8 が×切。また、航海の前半には Observatory の設置を行う。
- ・ Exp. 349 には2名の応募があった(本日×切)。
- ・ Exp. 350～352 IBM はまだ応募はなく、募集×切は5/1。
- ・ Exp. 350 は IFREE/JAMSTEC の田村氏、351 は産総研の石塚氏が Co-chief になる見込み。
- ・ Exp. 351 は白亜紀の堆積物も掘削するため、Sedimentologist も必要になる。

4. JpGU2013 関連【事務局】

・地球掘削科学セッション資料6

- ・ セッション編成が終了した。口頭発表17件、ポスター発表21件。
- ・ 口頭発表での採用は、本来は発表の内容を考慮し、聴衆が面白いと思える発表を採択するのが良いが、今回は乗船航海の速報や乗船後研究の発表を組んでしまうと他はポスターに回ってもらわざるを得なくなった。

・タウンホールミーティング

- ・ 5/21(火)を First priority とし、5/23(木)を Second priority とする
- ・ 火曜日に他の行事が重なっていないか確認し、重なっていなければ火曜日、重なっていたら
- ・ 来年度以降、IODP-MI からの資金提供がなくなった時に飲物をどうするかについては要検討

5. J-DESC 総会関連

・次期IODP部会体制について(J-DESC役員、次期執行部等)資料7

- ・ 藤井会長の任期満了に伴い、川幡部会長より木下肇氏にお願いし、内諾をいただいた。
- ・ IODP 部会長は任期満了につき、交代。後任は東北大学の石渡氏にお願いし、内諾をいただいている。
- ・ IODP 部会幹事の一部は任期満了となる。通例は再任の移行を確認し、その意向が無い場合は後任を推薦するという手続きを行っているため、今回もその手順で手続きを進める。
- ・ IODP 部会執行部は全員任期満了となる。新部会長と部会長補佐と事務局で相談し、次期メンバーを選出する。
- ・ 5/25(土)AM10:00～JAMSTEC 東京事務所にて開催で調整を行う。

・活動方針及び予算資料8,9
今年度の活動と予算執行状況を確認した上で、次期執行部への申し送り事項を検討した。

合意事項(130401-02):次期執行部への申し送り事項を以下とすることが合意された。

- ・ 積極的にイベントの共催や後援などを行う。
- ・ 会員提案型活動経費をより広く宣伝し、より活発かつ有効に利用してもらうことを検討する。
- ・

6. 日本学術会議大型研究計画マスタープラン改定関連報告【西】

- ・ 掘削科学全体として提案を行った
- ・ 表層堆積物、沈み込み帯、海洋地殻の柱に資源や社会貢献等の要素を盛り込んだ。
- ・ この後、ヒヤリングが行われ、審査が行われる。
- ・ これが通れば予算が付いてくるわけではなく、要求しなければならない。
- ・ マスタープランとして学術会議に載っていることが重要。マスタープランに基づき、概算要求を出すことになる。
- ・ 船は独法が業務として提供し、これを使うのは大学等の研究者がソフトマネーとして使うという構造が一番きれいな形。

7. その他

・IODP 成果報告会について

- ・ 月刊地球やレビューペーパーの出版に伴い、一般向けにこれまでの10年間の科学成果とこれからの掘削研究について広く広報するため、IODP 成果報告会を行うこと、およびそれに合わせて研究者向けにもセッションを行うことが事務局から提案された。
- ・ どのように協力するかどうかは、次回以降より具体的な企画案を提出してもらい、判断する。